

寒い寒い毎日です。  
それでも子どもたちは、朝、ロング休憩、昼休みと外で元気に遊んでいます。  
改めて、子どもたちのエネルギーに感心させられます。  
子どもたちがこのエネルギーを有効活用できるように  
しっかり支援していかなければ・・・

## 持久走記録会

2月5日、持久走記録会を浜公園で開催予定です。1月中旬から体育の時間はもちろんのこと、朝練習でも走っています。雨が多く走れない日もありますが、放課後自主的に走っている子どもたちもいて、それぞれ自分なりにがんばっているようです。

長距離走は、体力、筋力はもちろんのことですが、それ以上に精神力が必要です。走るのが速い遅いに関係なく、普段の生活の中では見せることのないような、苦しいけれどがんばっている真剣な表情の子どもたちを見ることができます。しんどいけど楽しかった、気持ちよかったという経験は子どもたちを大きく成長させます。その経験ができるよう子どもたちを応援したいと思います。

当日体調を崩したり、けがをしていたりで、走れないということのないように、おうちでも気をつけてあげてください。まだまだ寒い日が続きます。手洗いうがい、バランスのよい食事、十分な睡眠で、当日元気に走ることができるよう、ご家庭での支援もよろしくお願いします。



あちらこちらで、梅の便りが聞こえて来る季節になりました。

梅にちなんで与謝蕪村の俳句を紹介します。蕪村は享保元年（1716年）摂津の国（現在の大阪府北部）で生まれた江戸時代を代表する俳人です。



## 二もとの梅に遅速を愛すかな

この句の意味は、

「早春の寒風の中、凜として咲く梅の花。同じ木、同じ枝でも花は一斉に咲くわけではなく、早く咲く花もあれば遅く咲く花もあります。そのどちらも愛すべき花で、「早い」「遅い」それ自体までもが尊いのです。」 だそうです。

梅に限らず、すべての生物には個体差があります。子どもたちの成長も同様です。

人は、ついつい成長の早い子どもに目が向き、ゆっくりな子どもに「早く早く」という思いを持ちがちです。でも、成長の早い子どもにとっても、ゆっくりな子どもにとっても、それぞれその時その時が大切な時間なのです。愛おしい時間なのです。

「早い」「遅い」も含めて梅を愛した蕪村のように、「早い」「遅い」も含めて子どもたちの成長は愛すべきものなのです。

ご家庭でも子どもたちと梅を愛でながら、この句を味わう時間が持てるといいですね。

### 避難訓練

先日は、日曜参観・避難訓練にご参加いただき、ありがとうございました。自然災害が起きるかどうかをコントロールすることはできませんが、起きた時の被害を減らすために心がけることや準備しておくことを確認する機会になったでしょうか。

被害を少なくするためには地域の力が必要だと言われています。同様に学校でも、子どもたちの団結力や他を思いやる心が大切です。いざというときに、自分の命も周りの人たちの命も守ろうとする心と行動力をもった子どもたちを育てるためには、学校・家庭・地域の協力体制が大切です。

今後ともよろしく願いいたします。